

河田正一市政ニュース



あけまして
おめでとうござります

本年もみなさんの声を

市政に届けるために頑張ります

岡山市議会議員 河田正一

市民サービス窓口・拠点再編

支所・地域センターなど市民サービス窓口を公民館に統合する計画が持ち上がっています。御津や建部など広い地域は画一に中学校区一つではサービスが低下してしまいます。私は総務委員会で改善を求め、「公民館機能の低下はさせない」「地域性に配慮する」ことを約束させました。

産業建設課の存廃

4合併地域では新市建設計画推進のため、支所として産業建設課があります。(灘崎は区役所)市民サービス窓口が公民館に移ると、産業建設課がなくなるのではと心配していましたが、新市建設計画実現までは産建課は残すことを行革局長が答弁しました。

敗訴—御津虎倉産廃裁判

12月18日、御津虎倉産廃処分場建設差し止め裁判の判決が出ました。主文「原告の訴えはすべて棄却する。裁判費用は原告の負担。」という不当なもの。わずか一分間で、主文を読み上げただけの冷たいものでした。詰めかけた百人の支援者もあつげにとられて、すぐには言葉が出てきませ



んでした。夕方には地元で判決報告集会が開かれ、会場いっぱいの人たちは、弁護団から判決の不当な部分の説明を受けました。私は箕島処分場の容量超



▲マスコミに答える中原会長



過が計画通りに行われていないこと、業者が岡山市との約束を果たさないできうすぐ判明

木造住宅耐震化補助事業継続する

地元建設業支援を要望

国が有効な経済対策をしない中で中小企業の仕事が減っています。岡山市は99%以上を中小企業が占めているので、経済対策は中小企業に向けた対策が必要です。特に、零細業者、一人親方の仕事を増やす施策を市が独自にするべきだと追求しました。その中でも、昨年実施して22倍の経済効果があった住宅リフォーム助成制度の復活を求めました。しかし、当局は東日本大震災の影響による建設事業の落ち込み対策で昨年限りの政策だったと、再考する姿勢を示しました。全国では1/3の自治体の実施、大きな経済効果があると好評を博している施策ですが、岡山市は効果がわからないとの一点張りです。私の後に質問した2人の議員も住宅リフォームについて、必要な施策だと復活を求めました。数々の具体的な中小企業対策を求めましたが、その中の一つ、木造住宅耐震診断・耐震改修補助(80万円)については来年度も継続することを約束しました。

するので、引き続き議会で追及する決意を述べました。産廃阻止同盟会長から直ちに控訴して戦いを続ける決意が述べられました。最後に団結ガンバロウを三唱して決意をみんな固めました。

産廃は大幅減、でも処分場は増やす？

減少傾向にある

総排出量

産廃の総排出量は、〇二年度に四億トンをきりましたが、その後増加しました。しかし、〇八年度から減少しています。

産廃の再生利用量は、ほぼ二億トで横ばいですが、再生利用率は年々上昇し、〇九年度は五三割

となっています。

激減した産廃処分

岡山市は

さらに必要と答弁

産廃の最終処分（埋め立て）は、量・率ともに大幅に減少しています。二十数年前には一億ト近くあった最終処分量ですが、九六年度には約六千

万トンに減り、その後も年を追うごとに減少し、

〇九年度には千三百五十九万トへと減少しています。

今後の見通しについて、

産廃の専門家は、「メーカーを中心に海外進出はさらに継続する。また、3Rも次のステージに進み今後も廃棄物量の増加は見込めない」と述べています。他府県は、処理

計画を減少させる変更を

していません。しかし、岡山市環境局長は、岡山県は今後も増えるので、更なる処分場は必要と答弁。産廃処分場建設を認めるような発言をしました。

新斎場計画

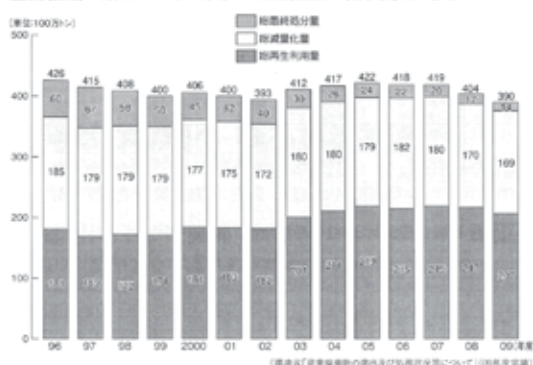
地元説明を尽くせ

新岡山北斎場計画が富吉に持ち上がっています。今年春から、三和地内に計画されましたが九月、地元の反対で断念しました。ところが九月末突然に富吉町内会が吉備新線沿いの産廃跡地を斎場建設候補地とすることに同意しました。しかし、岡山市は地元説明会を開いてもおらず、予定地直近の人たちが異議を唱え、

私に相談にきました。富吉町内会長は、必要はないと説明会を開くことを拒んできました。火葬場はいわゆる「迷惑施設」の一つです。地元説明会をすることもなしに、市が計画を進めることは好ましくないと、私は市民局に申し入れました。十月十三日（木）に馬屋上学区説明会として開催されました。説明会には平

日にもかかわらず、百五十人集まり、大半の人が反対だったそうです。火葬場は必要な施設ですが、地元の同意を得て円満に進めるべきです。

産業廃棄物の総排出量、再生利用量、減量化量及び最終処分量の推移



予算要求で市長交渉



11月26日、市長室で高

谷市長、金谷・橋本両副市長と新年度予算について交渉しました。日本共産党岡山市議団として、212項目を求め、中でも、1. サービス窓口体制について2. 就学前教育・保育の在り方と保育園増設について3. 子供の医療費無料化拡大4. 国保料の引き下げ5. 住宅リフォーム助成創設の5つの重点項目について意

不当な質問制限はやめよ

十一月議会では、一問一答方式で個人質問する議員は発言時間が十分減らされ二十分にされました。せつかくわかりやすい質問戦になったと、市民から評価されたのに、議会自らが質問を制限するやり方は間違っています。三十分にするべきです。



私の質問中に議長が議会を止めました。議長が後で、「質問を聞き直す」と私の勘違いでした。すみません」と謝りました。（写真）

見を交わしました。翌日は、山脇教育長と懇談し予算要求をしました。（要求項目は市議団ブログを参照してください）

国保条例改正に反対

国保料の低所得者対策として岡山市として独自減免の制度があります。

今議会で、減免した分を他の保険者に転嫁する条例が出されました。これは認めることができないと、わが党は反対しました。98議案の中で反対したのはこの1件の議案だけです。しかし、他党派はすべて賛成したので、全議案は可決されました。

議会で決まる